SISTER CITIES NEWS

姉妹・友好都市ニュース

International Friendship Association of Ibaraki 茨木市国際親善城市協会

Vol.62 2014.5.10

国際交流の集いで「荒城の月」を歌った多国籍バンド

CONTENTS ―目　次―

- 2014年国際交流の集い …… 2
- 大分県竹田市への訪問団 …… 3
- 英語スピーチ大会、英語ハイクコンテスト …… 4
- ホームステイ・ビジット …… 5
- 国際交流＆まちなかアートツアー、茨木カンツリー倶楽部青少年国際交流助成事業基金 …… 6
- 中国語で遊ぼう、青少年活動室、実用日本語学習会、姉妹都市活動室 …… 7
- お知らせ（協会会員募集、小豆島・竹田市宿泊施設利用補助制度、次回市民訪問団の予定） …… 8

2014年 国際交流の集い

― International Gathering 2014 ―

1月26日（日）、「2014年国際交流の集い」を開催、市民と外国人約350人が交流しました。今回は20回目の節目ということもあり、男女共生センターローズWAMを全館借り切り、日本語スピーチ発表会をはじめ、昨年11月の英語スピーチ大会優勝者によるスピーチ、歌、演奏、ダンス、多国籍料理、もちつき体験、着付け体験、生花体験、市内の高校によるブースなど、多彩なプログラムを用意し、会場は活気と笑顔に溢れていました。

また、昨年に引き続き東日本大震災復興支援の一環として、東北の物産販売を行いました。ご協力ありがとうございました。

今回日本語スピーチ発表会で素晴らしいスピーチを披露して下さった方々と、多国籍料理のレシピ提供と調理関係を担当してくださった池本ニルミニさんに感想をお聞きしました。

小澤　アテナ　ガブリエラ：ルーマニア

第２０回という大きな節目を迎えられました。多くの方に支えられ、こんな素晴らしい交流が出来て深く感激しております。

賴　均韋（ライ　ジュンウエイ）：台湾

今回初めて日本語スピーチ発表やりました。世界各地からたくさんの人々と話し合うのは楽しかった！

ビル・セリアンヌ：フランス

私は　はじめは本当にきんちょうして　頭はまっ白でした。でも、話し始めると　だんだん楽しくなってきました。この機会を与えてくださった皆さんに　感謝しています。

張　志強（チョウ　シキュウ）：中国

1月26日に私は茨木市の国際交流活動に参加しました。このスピーチのおかげでスピーチの能力はすこし上達しました。それと他の国からの人たちと交流して、勉強になりました。

オルネラ・バイ：コンゴ民主共和国

初めて　日本語で長時間日常会話のように　話せたので　すごくうれしかったです。
私は　先生　夫　そして　ここにいるたくさんの人たちに　感謝します。

沈　文豪（シン　ブンゴウ）：中国

今回のスピーチ発表会に参加したことで私はとても充実した時間を過ごせた。次もまた機会があれば参加してみたいと思う。

池本　ニルミニ：スリランカ

たくさんの人々がスリランカのカレーを食べてくださったので、すぐになくなりました。カレーを通してスリランカを近くに感じてくだされればうれしいです。

大分県竹田市への訪問団

3月17日（月）から19日（水）まで、協会会員11人が歴史文化姉妹都市の大分県竹田市を訪問しました。訪問団に参加された山﨑さんからレポートをいただきました。

大分県竹田市への訪問団に参加して

（文化財愛護会会長）山 﨑　茂 和

3月18日朝9時、竹田市役所を表敬訪問。玄関から庁議室までの廊下で、大勢の職員の方々の温かい拍手による歓迎を受けました。

庁議室では、首藤市長をはじめ、議長、竹田ロータリークラブの方々、市幹部担当職員の方々、14人が出席されました。記念撮影のあと、首藤市長より、「昨年、両市で姉妹都市締結の式典を開くことができました。縁の深さを感じています。今後は心の交流も深めたい。」と歓迎の挨拶がありました。私たち訪問団を代表して、本協会の若林会長が「こどもの健全育成には、両市の歴史交流が大きな役割を果たします。いっそう関係を深めたい…。」とお礼の挨拶をしました。

このあと、市内見学に。まず、竹田市立歴史資料館を見学。ぜひ見たかった「サンチャゴの鐘」。表面には「HOSPITAL　SANTIAGO　1612」の刻印が読めます。「キリシタン禁教令」が強まっていった慶長17年の頃です。よく残ったなあ…と感動しました。

次いで旧竹田荘へ。日本の南画界を代表する田能村竹田が、作品の南画を描いたアトリエともいうべき建物です。古い建物ですがよく保存・管理されており、日本家屋の粋をみる観がありました。

廉太郎トンネルをくぐり歩いていくと、3種類の瀧廉太郎作曲のメロディーが聞こえてくる仕掛けがありました。瀧廉太郎記念館に入ると、この家は、瀧廉太郎が12歳から14歳まで、郡長であった父に従って住んだそうです。多感な少年時代をここで暮らし、岡城には、よく遊びに行ったであろうと想像してみました。

「丸福」での昼食後、国指定史跡岡城跡へ。地元の方、衛藤さんがガイドしてくれます。一同、大手門の急坂を登り、三の丸へ。険しい山城の観があります。三の丸の道より眺めた、ポスターにもなった高石垣、三の丸、二の丸、そして一段高い本丸へ。はるか久住連山を眺め、周囲を圧してそそり立つ天守閣を想像してみました。

文禄3年（1594）、中川秀成公が7万石の藩主として、兵庫県三木城より転封され、家臣とともに竹田のまちに入り、以後、明治に至るまで、中川氏が藩主を務めました。広い西の丸一帯に、藩政の中心的建物がありました。本丸跡より四方を眺めながら、衛藤ガイドさんの唄う「荒城の月」が心に沁みました。歌詞の詩情を現地で、しみじみ味わうことができました。

このあと、殿町武家屋敷通りを通り、キリシタン洞窟礼拝堂へ。竹田市の地形の関係からか、旧竹田には洞窟が多い…と聞きます。茨木の隠れキリシタンと同じように、ここ竹田でも禁教の嵐が吹き荒れ、厳しい追及の果ての処刑跡もあるとか。外様大名たる藩主中川氏にとっても、禁教の政策を採らざるを得なかった…と想像できます。

次いで廣瀬神社へ。竹田出身の廣瀬武夫は、日露戦争時、旅順港閉塞作戦を指揮しました。福井丸を湾の入口に沈め、軍艦が外に出られない作戦を夜中に敢行します。杉野兵曹長の名を呼びながら、弾丸の命中弾を浴び、戦死します。海軍きってのロシア通で知られ、ロシア留学もしています。死して、軍神と讃えられました。私が尋常小学生のとき、習った唱歌『廣瀬中佐』を、思わず口ずさんでいました。

最後に、歴代藩主が眠る「おたまや公園」に詣で、中川氏の家系図を思い出しました。中川家の家系は現在も続き、明治以後、すばらしい学者、貴族院議員、大学教授として、その務めを果たしておられます。

18日夜は、長湯温泉「大丸旅館」にて、歓迎会がおこなわれました。私は、首藤市長といろいろお話をすることができました。

首藤市長は、「これからのこども達が、すばらしい道徳観をもって、郷土を愛し、国をおもう、気概のある人に育っていってほしい…。国の将来は、こども達にかかっている…」と、熱く語ってくださいました。私たち、おとなの責務ではないかと感じました。

明けて19日は、久住高原をドライブし、ガンジー牧場、久住ワイナリー、くじゅう花公園を訪ねました。昼食後、スカイパークあざみ台から、久住連山を正面から眺めることができました。

帰りは、市の公用車で後藤姫だるま工房に行き、製作者のおばあちゃん後藤明子様に、直接会うことができました。そして、日本一美しいという白水ダムを観光。流れ落ちる水の美しさに、じっと見とれていました。

あと、道の駅“すごう”で、バスに乗り換え、一路、熊本空港へ向かいました。

現在の竹田市は、大分県南西部を占める大きい市です。心の郷里でもあり、産業、特に農業や酪農の発信基地…といった印象を強く持ちました。井路のすばらしさ、湧水の豊かさ、何よりも広々とした牧場。久住高原を旅して、いい市と姉妹都市になれた…と、つくづく感動を覚えた訪問となりました。

くじゅう花公園

岡城跡

竹田市内にご宿泊の際に宿泊施設利用補助制度がご利用できるようになりました。詳しくは8ページをご覧ください。

第30回英語スピーチ大会報告

11月3日（祝）第30回「英語スピーチ大会」を開催しました。
会場となった福祉文化会館文化ホールは、ほぼ満席の盛況ぶりで、指定暗唱文 “Malala’s Day Is Our Day” を暗唱した中学生16人と、自由なテーマで自分の思いをスピーチした高校生11人の堂々とした表現力豊かな声が会場に響き渡りました。審査員の先生方や聴きに来られた方々から「発音がよく堂々としていて良かった」、「あんなに長い文章をかまずに発表できていてすごい」、「それぞれの個性がでていて楽しめた」といった感想が寄せられました。

中学生の部

第１位　大久保　怜奈 さん
茨木市立天王中学校　３年生

第２位　妹尾　果林 さん
茨木市立西中学校　３年生

第３位　樋口　和花 さん
茨木市立養精中学校　３年生

審査員特別賞　原　明穂 さん
茨木市立三島中学校　３年生

高校生の部

第１位　木村　研一 さん
大阪府立茨木高等学校　２年生

第２位　柴尾　万葉 さん
大阪府立茨木高等学校　２年生

第３位　髙田　正希 さん
大阪府立春日丘高等学校　１年生

審査員特別賞　吉田　夏海 さん
神戸女学院高等学部　２年生

英語ハイクコンテスト 入賞作品決定!!

今年もミネアポリス市から120句の応募がありました。厳正なる選考の結果、各部門で１位に選ばれた作品をご紹介します。

お題「立つ」stand

今年のハイクは、人間をよく観察した作品が多く出品されました。年齢を超えて、素直に自然を捉え、真面目に人生に向かっているいい作品がありました。
評価の基準として、イメージの明確なもの、プロパガンダでないもの、観念的でないもの、できるだけ新しい物の見方、英語語彙の使い方の巧さ、音の使い方などです。今回の作品も評価の基準を鑑みて、詩的感性の豊かな作品を選びました。

翻訳・講評：吉村　侑久代（岐阜保健短期大学教授・日本英詩協会会長）

幼稚園・小学校の部　作者：Alijah Krause

Stand up like my dog	飼い犬のように立っている
Eyeing my new neighborhood	新しい隣人を見つめながら
Both feeling so brave.	何事も恐れぬ気持ちで

中学生の部　作者：Sam Fritsch

Slowly, the fawn wakes	ゆっくりとシカが起き上がる
As it stands, its feet wobble	立ちあがる時、脚がもつれる
It takes its first steps	シカは最初の一歩を進む

高校生の部　作者：Griffen Desoy

Dreams begin to fade	光が窓から差し込み
As light pierces my window	夢は徐々に薄れる
I stand from slumber	私は眠りから立ちあがる

成人の部　作者：Mary Doyle

Haystacks dot the field	畑に点々と置かれた干し草は
Stand guardians of the farm	農場の管理者、そして
Silent warriors	沈黙の武人のように立っている

ホストファミリーになってみませんか?

茨木市国際親善都市協会では、留学生やJICA研修生を受け入れてくださるホームステイ・ホームビジット受入登録家庭を募集しています。ご自宅で国際交流しませんか?

対象外国人 阪大留学生、JICA研修員など
内　　容 ホームステイは学生用に1室と1日朝・夕の2食（週末・休日は3食）の提供
ホームビジットは1日のみ宿泊なし
と　　き 随時、登録家庭に募集情報を郵送
対 象 者 茨木市国際親善都市協会会員
申 込 み 協会事務局（文化振興課内　TEL 620-1810）へ登録用紙を提出

ミネアポリス市アンソニー中学校生徒等のホームステイ

4月4日（金）から6日（日）までミネアポリス市アンソニー中学校の生徒と保護者、引率教員、総勢12人が来茨され、日本の生活や文化を体験したいと、ホームステイをされました。受入先の各家庭では宿泊や食事の他、アクティビティも提供していただき、生徒たちは楽しかった、貴重な経験になったと喜んでいました。

Riggs君とJackson君の3日間
北川さんのお宅でお世話になりました。

子ども達とサッカーをしました。

北中学校にて外国の遊びを体験

北中学校サッカー部と交流

公園にて

エアホッケーをしました。

回転寿司に連れていってもらいました。

北川さんより
国際交流できました。楽しかったです!

ご協力いただきました7家庭の皆様ありがとうございました。

大阪大学留学生ホストファミリープログラム

4月8日（火）出会いの会が実施され、3人のホストファミリーが決定しました。
本協会では、留学生及び地域社会がお互いの文化・習慣を正しく認識し、相互理解を深めることを目的とした「大阪大学留学生センターホストファミリープログラム(OHP)」に賛同し、ホストファミリーの登録をしていただいた会員の皆様に、大阪大学で学んでいる生徒の受入をお願いしています。
このプログラムはホームステイ（宿泊）はなく、交流回数、日時、内容は留学生とホストファミリーが話し合って決めるものとなっています。

国際交流&まちなかアートツアー

3月1日（土）、茨木市民20人と外国人12人が交流しました。午前中は、市内アート作品を鑑賞、午後からはローズWAMにてワークショップを行いました。外国人参加者は、初めての着物や市民参加者からのプレゼントに大喜び。楽しい交流のひとときとなりました。

「Trans-Ren」

ワークショップ

「はじまり -Deep Forest」

HUB-IBARAKI ART COMPETITION
制作現場を見学

(社)茨木カンツリー倶楽部 青少年国際交流助成事業基金

当基金では、茨木市国際親善都市協会が主催・共催又は後援する事業や、国外でのスポーツ・文化交流に参加する市内の青少年（満24歳以下）または青少年団体などに助成をしております。

平成25年度の主な助成事業

茨木市少年サッカー訪問団

平成25年7月13日～22日にかけて、中学生サッカーチーム12人が、アメリカミネソタ州で開催された「第27回シュワンズUSAカップ世界少年少女サッカー選手権大会」に参加し、アメリカの青少年と交流を深めました。

小豆島町中学生リーダーキャンプ

平成25年8月12日から17日にかけて、姉妹都市である小豆島町の中学生2人が、茨木市青少年野外活動センターで茨木市の中学生とキャンプ交流をしました。

絵画・書の交換

茨木市内幼稚園・小学校の子供達の絵画や書を、姉妹都市・アメリカ合衆国ミネアポリス市、友好都市・中華人民共和国安慶市、国内姉妹都市・小豆島町及び大韓民国昌原市に送付しました。

ミスダンスドリルチーム・インターナショナル in USA2014

平成26年4月1日から4月7日にかけて、春日丘高等学校生1人がアメリカ・アーバインで開催されたミスダンスドリルチーム・インターナショナルinUSA2014にMr. SOLO部門日本代表として出場しました。

ラボ国際交流事業

平成25年7月20日から8月26日にかけて、中学生5人がアメリカ、3人がカナダでホームステイを体験しました。

第30回英語スピーチ大会

平成25年11月3日、福祉文化会館5階文化ホールで、第30回茨木市国際親善都市協会英語スピーチ大会が開催され、トロフィーと参加賞が贈られました。

大阪府立春日丘高等学校のミネアポリス（サウスウエスト高校）派遣プログラム

平成26年3月16日から23日にかけて、春日丘高校の生徒14人が、茨木市の姉妹都市であるミネアポリス市サウスウエスト高校を訪問し、現地高校生との交流やホームステイを体験しました。

ミスダンスドリルチーム・インターナショナル in USA2014

平成26年4月1日から4月7日にかけて、早稲田摂陵高等学校生1人がアメリカ・アーバインで開催されたミスダンスドリルチーム・インターナショナルinUSA2014にMs.SOLO部門日本代表として出場しました。

我們是朋友!

中国語で遊ぼう

「我們是朋友!（ぼくらは友だち）」では、中国語に親しみたい子どもたちを募集しています。毎月1回第3土曜日（7・8月は除く）に、ローズWAMで開催しています。

親子で参加できる中国語教室ですので、ぜひ父兄の方々も一緒にご参加ください!
※もちろん子どもだけでも参加可です。

対象 小学1～6年生、参加児童の保護者
申込 協会事務局（TEL 072-620-1810）

※テーマや持ち物などの詳細は、開催月の広報いばらき及び協会ホームページの募集欄でお知らせします。

We Are Friends!

青少年活動室では、英語でクッキング、ハロウィン、クリスマスなど、毎回テーマに沿って講師の久徳ウェンディー先生と一緒に英語に親しむ"We Are Friends!"を、原則4・5・7・9・10・12・2月の第3日曜日にクリエイトセンターで行なっています。詳細は、開催月の広報いばらき及び協会ホームページでお知らせしています。

対象 小学4年生～中学3年生
連絡 協会事務局（TEL 072-620-1810）

Let's learn Japanese together!

実用日本語学習会

「実用日本語学習会」では、日本語を母語としない方を対象に、マンツーマンで日本語学習の支援を行っております。

また、学習支援者も同時に募集していますので、興味のある方は、ぜひ一度見学に来てください!

と き 《Thursday Class》1：30～3：00 p.m.
《Friday Class》 10：00～11：30 a.m.
ところ 8th Floor at City Hall Annex
ひよう 1,500円（テキスト代は実費）
※木・金曜の両方に参加の場合は、3,000円
れんらく TEL 080-5353-2445

ホームページ：http://nihongo.o.oo7.jp/

Ibaraki Intercultural Network IIN

姉妹都市活動室

姉妹都市活動室では、ミネアポリス市との交流を支えるための英語力や国際感覚の向上、異文化理解のため、ゲストスピーカーの英語によるスピーチを聞いたり、ディスカッション等を行ったりしています。また、JICA 研修員、阪大留学生や茨木市近隣に在住の外国人との交流を楽しんでいます。

興味のある方は、気軽に見学に来てください。

例 会 第1木曜日 午前9時30分～11時30分
第3土曜日 午後2時～4時
場 所 クリエイトセンター
※協会事務局（TEL 072-620-1810）へお問合せください。
資 格 茨木市国際親善都市協会会員
年会費 正会員:2,000円（18歳以上）
準会員 1,000円（中・高校生）

ホームページ：http://www.zd.em-net.ne.jp/~iin/

茨木市国際親善都市協会 会員募集!!

本協会では、茨木市の姉妹・友好都市をはじめ、国際交流に興味を持っておられる方々の入会をお待ちしています。

会員には、協会が主催する事業の参加者の割引き、年２回発行する協会報の送付、協会が催す交流行事のご案内をいたします。

主な活動内容

- 国際交流の集い
- 姉妹・友好都市への市民親善訪問団
- 中・高校生の「英語スピーチ大会」など
- 協会ホームページ：http://www.ifai.jp/

年会費 個人会員(一般) 2,000円　(学生) 1,000円
団体会員　一口5,000円

申込先 協会事務局

姉妹都市小豆島町の宿泊施設利用補助制度について

姉妹都市小豆島町との交流促進を図るため、茨木市では小豆島町の指定宿泊施設を利用する市民の皆さんに、宿泊費用の一部を補助する制度を設けています。

補助額 中学生以上2,000円、小学生1,500円(１人につき4月～翌3月までの年間１泊分のみ)
申請 宿泊日の10日前までに、申請書を文化振興課へ提出
詳細 文化振興課(TEL.072−620−1810)へ問い合わせ　又は下記ホームページへ

＜宿泊補助ホームページ＞
http://www.city.ibaraki.osaka.jp/kikou/shimin/bunka/menu/shodoshima/index.html

新設 歴史文化姉妹都市竹田市の宿泊施設利用補助制度について

昨年、歴史文化姉妹都市となった竹田市の、指定宿泊施設を利用する市民の皆さんに、宿泊費用の一部を補助する制度ができました。

本市と歴史的関わりの深い町、大分県竹田市を訪問し宿泊される際には、ぜひご利用ください。

補助額 中学生以上5,000円、小学生3,000円(１人につき4月～翌3月までの年間１泊分のみ)
申請 宿泊日の10日前までに、申請書を文化振興課へ提出
詳細 文化振興課(TEL.072−620−1810)へ問い合わせ　又は下記ホームページへ

＜宿泊補助ホームページ＞
http://www.city.ibaraki.osaka.jp/kikou/shimin/bunka/menu/takedashishukuhakusiseturiyouhojoseido/index.html

次回 訪問団の予定

今秋も小豆島町および竹田市への市民訪問団の募集を予定しております。詳細については、決まり次第、広報いばらき等にてお知らせします。

（小豆島町訪問団）

（竹田市訪問団）

編集･発行
茨木市国際親善都市協会
※平成26年4月1日から事務局は市民文化部文化振興課となり、さらに電話番号も変更となりました。
〒567-8505　茨木市駅前三丁目8番13号　茨木市市民文化部文化振興課内
TEL.072-620-1810　FAX.072-622-7202　ホームページアドレス http://www.ifai.jp/